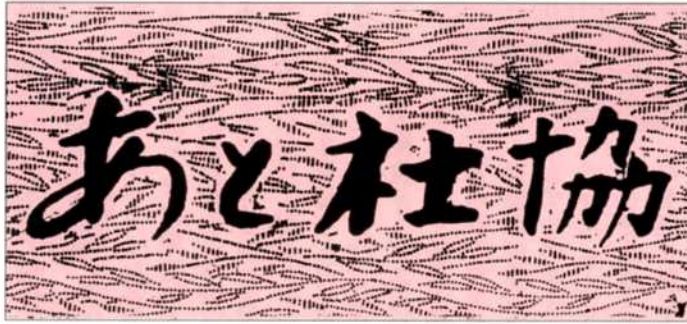




会報第124号

平成25年9月5日発行

阿戸地区社会

福祉協議会

広島市阿戸福祉センター内

電話 856-0294

阿戸町の世帯・人口

世帯数	954戸
人口	2,317人
男	1,136人
女	1,181人

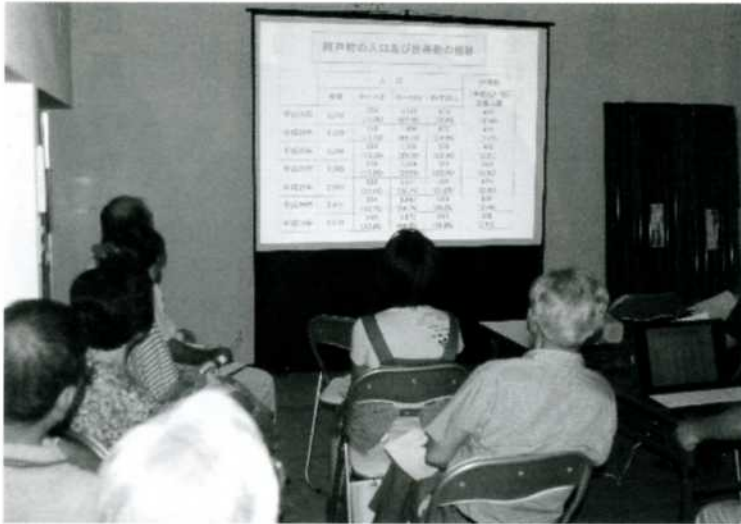
(平成25年8月1日現在)

平成25年度の抱負

阿戸地区社協 会長

松田 康憲

平成23年度から阿戸社協の見直しをスタートさせ、今年で3年目を迎えました。その間、役員、ボランティア、地域の皆様方に、支えていただき、多くの成果を上げることが出来ましたことを感謝しております。



平成25年度 福祉懇談会の様子(第2区)

活動を更に充実させるため、今年も各区町内会の役員の皆様と福祉の懇談会を6月からスタートし、7月20日まで行っておりました。阿戸社協が今取り組んでいること、問題点や課題などを、今年は目で見てわかり易くするため、スクリーンに映し出し説明いたしました。写真なども入っているもので、大変わかり易かった、と好評でした。

一方、今後の収入見直しはどうなるのか、寄付金頼みで良いのか、高齢者が増えてくるが大丈夫か…など、多くの質問もいただきました。こうした課題も踏まえながら、今年度も子どもから高齢者まで、みんなが助け合い、支え合って、安心して暮らせる「福祉のまちづくり」を目指して頑張りたいと考えています。引き続きご支援、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成25年度事業計画・予算の概要

阿戸地区社協 事務局長

景山 尚文

4月24日の評議委員会において、平成24年度事業・決算報告及び平成25年度事業計画・予算が承認されました。

平成24年度事業につきまして、地域懇談会の時期を年度末から年度始めに実施する等、従来の事業内容を一部改正し、4部会で分担し、部会長を中心とした体制で事業に取組みました。「いきいきサロン」増設等一部事業において実施できないものもありましたが、おおむね計画通り実施する事が出来ました。

- ①「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を目指し、地域のみんなを支えあう運動「あーとネット」(町内会班単位ネットワーク)の定着化に取組みます。
- ②核家族化の進展により世代間の隔離・断絶が問題視され、地域や家庭で異世代の共存が求められており、世代間交流事業の継続と共に児童・生徒に福祉の心を醸成する事業への取り組みを行います。
- ③新たな活動体制も定着化してきたため、理事、監事、評議員等役員を対象として研修会を実施し、福祉活動の高度化、効率化に取組みます。

阿戸地区社協予算状況

単位: 円

予算費目	25年度予算額	24年度予算額
収入の部		
会費	298,400	296,000
助会費	100,000	80,000
補助金	355,000	430,000
寄付金	450,000	450,000
繰越金	663,084	451,661
その他	516	339
合計	1,867,000	1,708,000
支出の部		
事務費	180,000	178,000
総務費	205,000	125,000
備品購入費	30,000	30,000
広報費	210,000	210,000
地域福祉費	305,000	280,000
敬老会開催費	330,000	320,000
高齢者福祉費	220,000	235,000
ボラ・推進費	94,000	90,000
児童等福祉費	192,000	175,000
障害者福祉費	45,000	45,000
予備費	56,000	20,000
合計	1,867,000	1,708,000

平成25年度予算の概要は下表の通りです。

高齢者・ボランティア部会

部会長 真藤 和夫

高齢者・ボランティア部会の活動は昨年度とほぼ同じですが、一番の活動は配食サービスです。昨年までは月1回の人と月2回の人に分けて配食していましたが、本年度は全て月1回とさせていただきます。毎月第2土曜日が配食サービスの日です。料理を作るボランティアは28名です。4人ずつのチームで弁当を作り、弁当を手渡す時の笑顔に触れ合いの「宝」として頑張っています。又、弁当を車で配って回るボランティアは9名で予定表をもとに、2台で配っています。

平成25年度活動方針

配食サービス以外では「高齢者と児童館との交流会」、「高齢者と幼稚園児、保育園児との交流会」を実施いたします。住民福祉講座の開催や、食中毒予防講習会などを開催し、更にボランティアバンクの開設で、困った時に気安くお手伝い出来るような町になるよう力を

広報部会

部会長 宇野 耕次

町民の社会福祉活動及び社会福祉協議会事業に対する理解・参加を得る為の広報・啓発活動を行います。広報誌「あと社協」の紙面の充実を図り、年3回発行し、全会員に配布します。さらに阿戸地区社協の事業や活動の理解と協力を得る為の広報活動を行います。

地域・福祉部会

部会長 景山 香葉

地域福祉部会の今年度の活動は、各区の班長他にお集まりいただき、地域福祉懇談会を4月より順次開催してきました。社会福祉協議会の事業を分かり易く説明する為に、プロジェクトを使用し説明し好評でした。

福祉防災会議を7月25日に行い、各区において災害時における見守り体制の確認を行いました。又、「いきいきサロン」の充実に取組んでいたところ、5・6区で立ち上げが成立し、7月より活動が開始されております。

今後の計画としては「でま・くにくさ」の施設見学を行う予定です。

今年度も地域の皆様に寄り添った活動を行っていきなと思っています。ご協力をお願いいたします。

児童・障がい児者部会

部会長 高山 義昭

児童・障がい児者部会では、平成25年度も24年度と大きく変化はなく、少子化に伴う子育て対策や障がい児者に対する事業を柱として次のことを推進していきます。

①年2回の福祉教育推進会議の充実

②児童・生徒に「福祉の心」を醸成する事業の模索

③子育て、子育て世代の母親対策事業の充実

④児童障がい児者の理解と仲間づくり事業の推進

これらを進めるに当たっては学校サイド、PTA、高齢者等との情報交換、連絡を密にし、聴く耳をもって活動を検討・実施します。以上の内容で活動を進め、一同で頑張りますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

【役員・評議員】

役職・名前・所属部会（◎は部会長）・出身団体（役職別に五十音順）（敬称略）

◆会長	松田 康憲	地域	連合町内会（第4区）	京才小夜子	高齢者	ボランティアグループ
◆副会長	高山 義昭	◎児童	連合町内会（第5区）	倉橋 清美	児童	ボランティアグループ
◆理事	池田 正裕	地域	連合町内会（第3区）	鈴政 良男	広報	防犯組合
	池田 美雪	高齢者	協議会	田中 秀昭	高齢者	連合町内会（第5区）
	石井リツ子	高齢者	学識経験者	中川 光利	広報	連合町内会（第1区）
	宇野 耕次	◎広報	連合町内会（第1区）	平田 泰宣	高齢者	民生委員児童委員協議会
	奥作恵美子	高齢者	ボランティアグループ	藤田まゆみ	高齢者	民生委員児童委員協議会
	景山 香葉	◎地域	民生委員児童委員協議会	藤原富美子	児童	民生委員児童委員協議会
	景山 尚文	◎事務局	連合町内会（第6区）	松田 英子	児童	民生委員児童委員協議会
	小森 崇	◎広報	中学校PTA	宮脇 陽路	地域	小学校PTA
	真藤 和夫	◎高齢者	老人クラブ連合会	村上 美幸	高齢者	青少年健全育成連絡協議会
	出口 勝紀	◎広報	連合町内会（第2区）	山縣 国明	地域	ボランティアグループ
	土居 光明	児童	青少年健全育成連絡協議会	山田 葛巳	地域	連合町内会（第4区）
	久光 肇	地域	小中学校PTA	横路 和夫	地域	交通安全運動推進隊
◆監事	山田 洋司	児童	連合町内会（第2区）			
	末永 宏征	◎広報	連合町内会（第2区）			
	古井 智子	児童	民生委員児童委員協議会			
◆評議員	伊藤 広子	高齢者	女性会			
	植片 洋幸	地域	連合町内会（第3区）			
	越智 葉子	児童	民生委員児童委員協議会			
	景山 子	児童	連合町内会（第6区）			
	加藤 健治	児童	体育協会			
	金盛 博司	児童	老人クラブ連合会			
◆評議員	井場 光子	◎広報	中学校PTA			
	井場 渉	地域	ボランティアグループ			
	高橋 千秋	児童	ボランティアグループ			
	土肥 昭一	児童	老人クラブ連合会			
	吉本 玲子	地域	母子寡婦福祉会			

〈お世話になりました〉

平成24年度をもって退任された方々です。ありがとうございました。

◆理事 川崎 博子 高齢者 ボランティアグループ

◆監事 木曾 尚子 児童 中学校PTA

平成25年
6月22日(土)

福祉活動の勉強会

地域福祉部会 植片 洋幸



今年度は、阿戸中学校の藤本校長先生に「きく・聞く・聴く・訊く」答えは相手の中にある!!という演題にて、約2時間の講演を行っていただきました。今回の講演にて、「きく」という難しさ、訓練不足をつくづく痛感いたしました。日頃は自分の人生の中で出来上がった、価値観、解釈により相手の話を「きく」という行動を取っています。

出席者の皆様には忙しい中、長時間にわたり勉強していただきありがとうございます。藤本校長先生には、あまり若くない生徒にご指導をいただき、深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

話の中でありました、「パラダイム」という言葉。自分が意識しない、価値観の枠組みによって感じたり、考えたり、行動していることに気づかされました。

この「パラダイム」をどう越えていくか?との問いかけに、簡単にはお答えできないと思われませんが、パラダイムを生む言葉を、1つでも、2つでも、常に意識して使わないように、使ったらすぐ変わりの言葉をさがす訓練を続けることが、越える一歩となると信じます。

平成25年
6月30日(日)子どもと高齢者の
ふれあいペタンク大会

児童・障がい児者部会 高山 義昭



参加者は子ども40名、高齢者(老人クラブ)14名、子ども会の父兄による手伝い6名、当日参加の保護者約20名、その他民児協等支援者として15名、と多くの人がホールに集いました。

開始に当たって、老人クラブ連合会の真藤会長よりルール説明を受け、子ども達を中心として約2時間30分のゲームを楽しみました。子ども達は、1年生・6年生まで

の参加で、低学年の子ども達の参加が75%を占めての参加状況でしたが、どの子どももお年寄りに教えてもらいながら、楽しそうに、素直に、のびのびと上手にプレーしていました。

このふれあいペタンク大会を行うに当たっては、多くのご支援をいただきました。特に老人クラブの皆様におかれては先生役、審判役をかついていただきましたこと、誠にありがとうございました。

平成25年
6月7日(金)平成25年度
献血実施

阿戸学区献血推進協力会 会長 池田 正裕



当日、JA安芸阿戸支店の二階は終日多くの人で賑わいました。

医療に必要な血液の安定的な確保に少しでも役立つことを目的に、毎年実施している献血。今年も100人を超える多くの人に献血に来ていただきました。

当日は平日なので、阿戸町民で来ることが出来る人は限られていました。それでも30人を超える人に来ていただきました。又、阿戸町民だけでは人数に限りがあるため、事前に

町内の事業所を回り、ご協力をお願いしました。ありがたいことに事業主の方にその趣旨を十分にご理解いただき、70人を超える方にご協力いただきました。

阿戸町に住んでいる人、勤務している人、阿戸町に関係のある皆さん方がお蔭で、多くの成果を挙げることができ深く感謝しております。来年も多くの皆さんのご協力をいただけるよう、関係者一同頑張ります。

金婚のお祝いを いたします

阿戸地区社協では、結婚以来50年の永きに亘り、お互い労わり合い、励まし合って家庭の隆昌及び地域社会に貢献されたご夫婦を、11月にお祝いいたします。

昭和38年1月から12月までに婚姻届を提出されておりますご夫婦は、各区町内会長又は担当民生委員までお申し出下さい。締め切りは10月末日までです。



善意の灯

次の方々から、ご寄付をいただきました。この善意は住民福祉活動のため、有効に活用させていただきます。

ご厚志、まことにありがとうございます。

◆香典返しにかえて

岡 薫 司 様
山下 庄 三 様
丸 子 茂 美 様
観音寺 八重子 様

◆見舞いの返礼にかえて

宮 脇 三代子 様
川 崎 照 男 様

阿戸地区社協

賛助会員のご紹介

今年度も阿戸地区社協の活動に賛同いただき、ありがとうございます。いただきました賛助会費は、「福祉のまちづくり」のため有効に使わせていただきます。ここに賛助会員様を紹介し感謝申し上げます。

●阿戸町内

(有)ナンバシコウ
(株)平垣内組阿戸営業所
米吉食品

くにくさ苑
りは・くにくさ

瀬野川鉄工(株)
(株)山下製作所

あとの郷
(株)アンドー

エーコープ阿戸店
安芸農協阿戸支店

(株)TODA
中本興業(有)

西日本レジコート(株)
芸州運輸(株)

地主 義喜 様

●阿戸町外

ひまわり印刷(株) 海田町
安芸交通(株) 熊野町

(順不同)

●阿戸社協のつぎ

4/8 小学校新入生に入学記念品贈呈
4/19 第1回理事会
4/24 定例評議員会
5/24 第2回理事会
5/28 地区社協会長・事務局長会議
5/30 第1回福祉教育推進会議
6/12 第1回部会長会議
6/22 福祉活動勉強会
6/30 ふれあいペタンク大会
7/24 ボランティア交流会
7/25 福祉防災会議

第3回理事会

親子の集い

第1回住民福祉講座

「あと社協」124号発行

9/5 9/29 8/25 8/1

敬老会

第2回住民福祉講座

9/26 9/15

毎週月曜日の午後、木曜日の午前、困りごとやボランティア活動の相談に応じる

◎毎月(第2土曜日)配食サービスの実施

住民福祉講座のご案内

「認知症サポーター養成講座
～誰でもなりうる認知症を正しく知ろう～」

日時 9月26日(木) 13時30分～15時30分

講師 広島市認知症アドバイザー

原 純子 氏

広島市阿戸・矢野包括支援センター 職員

会場は福祉センターです。皆様の多数の参加をお待ちしています。



編集後記

久しぶりの感動と、大人の責任について考えさせられた。テロリストの銃撃を受け、大跡的に回復したパキスタンの少女マラさん。16歳の彼女はあの国連本部で17分ものスピーチを行い、締めくくりでこう訴えた。「1本のペンと1冊の本が世界を変えられる。教育こそが唯一の解決の道です。」と。未だ全世界で6千万人もの子ども達が学校に行けない現状このスピーチが、少女に銃口を向けた、教育を妨害するテロリスト達のいない世界実現への第一歩であるとの希望を持ちたい。

広報部会 末永 宏征 記

